

# Campus Today



## 第1学年生が特別養護老人ホームを訪問

### お年寄りとコミュニケーションを図り 歯科医療人としての貢献を考える

歯学部第1学年の学生100人はクラスごと4班に分かれ、それぞれ9月19日(木)、10月3日(木)、10日(木)、17日(木)に特別養護老人ホーム桔梗荘(塩尻市)を訪問した。教養教育科目「入門歯科医学実習」の授業の一環として行われ、施設見学、清掃等のボランティア活動のほか、日ごろふれあうことの少ないお年寄りとのコミュニケーションを図った。超高齢社会の現状を理解し、福祉や介護保険制度、施設の活動などについて学び、将来、歯科医療人として地域社会に貢献する心構えを新たにしました。

第1学年の「入門歯科医学実習」で、高齢者と接する実習を行っている。毎年、コミュニケーションの大切さを理解することを目的に特別養護老人ホームを訪れ、施設見学や清掃などのボランティア活動、会話などを通して、成11年に本学キャンパス隣に移転した。



施設利用者のお年寄りと会話する学生

ており、本学は歯科治療や嚥下機能の評価など施設と連携を図っている。

実習にあたって、学生は最初にキャンパスイン101教室に集合し、病院初診室(総合診断科)の脇本仁奈講師より施設を訪問する際の注意事項や介護保険施設、介護保険制度についての説明を受けた。脇本講師は要介護者の現在歯数などの口腔内の状況や嚥下機能と食形態の関わり、要介護度別の歯周病進行状況などのデータを挙げ、「施設利用者の日常生活や要介護高齢者の特性を学び、理解を深めてください」と話した。



施設のガラス窓を清掃するボランティア活動

利用者の方々は人生の先輩です。人格を尊重した言葉がけを行い、利用者の話をよく聴くように心がけてください」と呼びかけた。また、言葉だけではなく表情やジェスチャーで安心感を与えることの大切さを説いた。

握手を交わしていた。実習を終えた学生たちは、「言葉の不自由な方や寝たきりの方など、さまざまな利用者を相手に、身の回りの世話を介護職員の方の苦労を肌で感じることができた」「超高齢社会の現状を目の当たりにした」「嚙齧や歯周病が進み、食事が大変になったと話されていた利用者の方のお役に立てる歯科医師になりたい」と思った」などの感想を述べていた。

### 日本解剖学会中部支部学術集会 金銅英二教授を大会長に 16年ぶりに本学で開催

日本解剖学会第79回中部支部学術集会が10月19日(土)・20日(日)の両日、本学口腔解剖学講座の金銅英二教授を大会長として、講義館201教室において開催された。本学での開催は2003(平成15)年以来16年ぶりで、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知、三重県の医学部、歯学部などの医療系大学で解剖学を担当する約50人の教員、研究者が集った。

秋の信州を堪能していただきながら、活発な討論や情報交換を期待します」と述べた。今回の学術集会では、医学の基礎となる解剖学の幅広い研究成果25演題が口演され、活発な討論が行われた。医学部解剖学講座からの参加者が多く、肉眼解剖学、顕微解剖学の分野にとどまらず、遺伝子解析を併用したさまざまな研究発表があった。



学術集会開催の挨拶をする金銅大会長

左から長尾君、金銅大会長、三野君、前田さん

「歴史ある本学術集会を16年ぶりに本学で開催するという栄誉に身の引き締まる思いで準備を進めて参りました。自然豊かな施設利用者のお年寄り」と話した。

口演後には、本部館地階の解剖学実習室の見学ツアーも企画され、参加者は本学の施設・環境の充実ぶりに感激していた。

創立30年記念棟2階カフェテリアで行われた懇親会においては、フレンチレストラン雷鳥の美味しい料理と塩尻産ワインを片手に情報交換を行うことができた。また、金銅大会長の奏でるオルガンとともに、歯学部第3学年の長尾将平君がトランペット、第2学年の前田風華さんがフルート演奏を披露。3人の伴奏にあわせて第1学年の三野耀執君が「What a Wonderful World」と「ハナミズキ」の2曲を伸びやかに歌い上げ、満場の喝采を浴びていた。

毎年開催される中部支部学術集会は、広く密接に情報交換する場であるとともに、お互いに刺激し合い、絆を深める良い機会であり、今後ますますの発展が期待される。なお、来年は愛知学院大学歯学部で開催される予定である。

本学術集会の開催にあたり、多大なるご理解とご協力・ご支援を賜りました松本歯科大学、協賛団体の皆さま方に心から感謝する次第である。

(口演解剖学講座 教授 中村浩彰)

名画で楽しむギリシア神話(32)

オデッセイア ⑧

パイエスキスの王アルキノオスの館で長い漂流譚を語り終えたオデッセウスは、王が仕立ててくれた船に乗り込み、イタケの島に向かった。夜明け前にポルキユスの入り江に着いた船は、まだ眠ったままのオデッセウスとたくさんの土産物を下ろすと静かに立ち去った。

やがて目を覚ました彼の前に女神アテナが姿を現した。故郷イタケに着いたことを知ったオデッセウスは喜んで大地に口づけしたが、女神は妃ペネロペイアと息子テレマコスが陥っている窮状を教え警告した上で、彼の正体が知られないようにと檻をまとったみすばらしい老人の姿に変えてくれた。



図2 オデッセウスとテレマコス父子の再会。背後にいるのは女神アテナ

さて、帰国を急いでいたテレマコスの許にも女神アテナが現れて、彼を亡き者にしようと待ち伏せている求婚者たちを避ける航路を教えるとともに、「イタケに着いたら他の乗組員はすべて町に向かわせて、一人だけで豚飼いのエウマイオスを訪ねなさい。母親への帰国の報せはそこで一晩過ごしてから翌朝に使いを出して知らせるのが良い」と告げた。

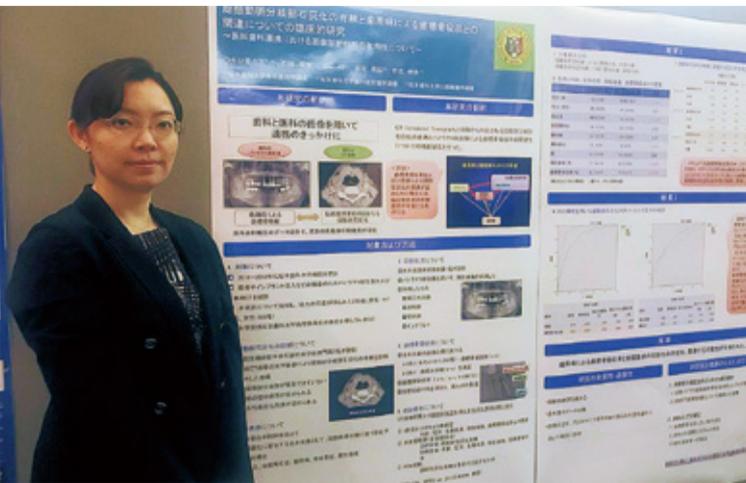


図1 クロード・ロラン：パイエスキス人の島から船出するオデッセウス

テレマコスの訪れに、エウマイオスは涙を流して喜んだ。「自分が無事に帰国したことを母親に知らせてほしい。ただし、くれぐれも他の者には気づかれないように」との頼みを引き受けて駆け出しに行った。

10月26日(土)、27日(日)の両日、令和元年度日本補綴歯科学会東海支部総会ならびに学術大会が岐阜市じゅうろくプラザにて開催された。本学からは歯科補綴学講座の黒岩昭弘教授が「ダイナミック印象に対する1考察」と題した一般口演を、歯科保存学講座の甲田訓子助手が「各種歯科用合金に対するレジンセメントの接着性の再考」と題した一般口演を行い、それぞれ会場にて活発な議論が繰り広げられた。

歯科医学を中心とした総合的な研究を推進する集い 口腔細菌学講座・出分菜々衣助教の研究が8演題に選出



研究演題が8演題に選出された出分菜々衣助教

日本歯科医学会が主催する第35回「歯科医学を中心とした総合的な研究を推進する集い」が8月28日(水)、東京都の歯科

医師会館において開催された。この集いは、学際的交流を通して新しい研究分野の開拓と研究組織の結成を推進することを目的

に毎年開催されており、本年も臨学一体の具現化をめざし、全国の歯科系大学から多くの研究演題の応募があった。選考の結果、本学口腔細菌学講座の出分菜々衣助教の研究が採択された。8演題のひとつに選出された。

出分助教は「総頸動脈分岐部石灰化の有無と歯周病による歯槽骨吸収との関連についての臨床的研究」―医科歯科連携における画像診断利用の有用性について―と題して口頭およびポスター発表を行い、CT画像から判定される頸動脈分岐部石灰化の有無と、パノラマエックス線画像による歯槽骨吸収率の間に

関連性が認められ、将来的に医科から頸部CT画像の提供を受けることが可能な場合、画像所見から医科および歯科双方の疾患を早期発見できる可能性が示唆された。

出分助教は「このようになすばらしい研究の集いにて発表させていただきます」

明海大学・竹下玲教授が講演 「CAMBRA 齲蝕予防管理法」 松本歯科大学病院セミナー

齲蝕はいろいろな要因が重複することによって発症する生活習慣病である。したがって、齲蝕予防は、お菓子を食べないと

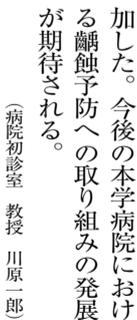
返し、いまだに有病率の高い国民病と言われ、齲蝕予防は十分とはいえない。

10月29日(火)に行われた病院セミナーでは、患者、医療スタッフがチームとなって、患者の齲蝕リスクを見だし、予防プログラムを実践する新しい方法をとりあげた。講師として明海大学保健医療学部兼歯学部社会健康科学講座口腔保健分野の竹下玲教授をお招き

らびに石岡康明助手に感謝の意を表します」と喜びを語った。画像診断は今後の医科歯科連携に大きな役割を果たすと考えられる。出分助教のさらなる活躍に期待したい。

米国のカリフォルニア大学サンフランシスコ校のJohn D.B. Featherstone 教授が開発したCAMBRA (Caries Management By Risk Assessment) について解説いただいた。CAMBRAは、「リスク評価に基づく齲蝕管理法」と邦訳

されている。個人の齲蝕リスクを4クラスに分類し、クラス別に予防管理方法を患者と医療者が共有する。このプログラムの特徴は、検査、予防実施方法がとてもシンプルで、かつEBM(実証で効果が確認されている医療方法)に基づいた情報を提供するにより患者や医療スタッフが理解して実践しやすいことである。



超高齢社会にある日本において、歯科、特に補綴分野においては「国民の健康寿命の延伸への貢献」が命題であるといえる。日本補綴歯科学会は現在「食力向上による健康寿命の延伸」をテーマに掲げており、本学術大会では生涯学習公開セミナーにおいて「健康寿命を延ばすための『食力』を考える―健康寿命の延伸に補綴がどうかかわるか―」と題し、デンチャーブライクと義歯洗浄剤に関する発表が行われた。

その他にも「歯科金属アレルギー」や「CAD/CAMレジン冠の接着」といった現在の補綴臨床に直結した内容の発表や議論が多く繰り広げられ、今後の臨床や研究へ向けて実り多き学術大会となった。

海外遠征も落ち着いた今は、主催しているイベントで長野県の自転車活用推進計画のうちの「Japan Alps Cycling Project」や、TOKYO2020を控えた日本チームの遠征準備など、来期の準備に時間を割いている。講演会なども行いながら通常業務の店舗も運営し、グリーンシズンよりも充実している。準備は何かを「する」ことは少なく、今の時期はとにかく人と会って話をしたい。良いと思えるアイデアを具現化するために、また人と会話をしたい。この繰り返した。すべてがスムーズに行くことは本当に少なく、必ずどこかで問題点などが見つかり、そうなる修正のために一旦ある程度まで戻って、また人と会って話を確認する。

最近気が付いたが、このアイデアのアウトプットが一番重要だ。正否はともかく、とにかく言葉に出すことで気づくことがある。「こうしたい」「こちらの方が面白いのでは?」「いやいや、それは誰々さん困るよ」など。会議と一言と堅く退屈な印象だが、アウトプットの重要性に気が付いてから、この作業が楽しくて楽しくて、このあることに話をしていく。このアウトプットしたものから書類を作成する作業なども待ち構えているのだが、これはダントツで苦手な仕事。そこは得意な人に任せ、僕は話すこと、アウトプットに力を入れている。今年も残すところ1カ月。準備を怠らず、すばらしい年を迎えていくためにもしっかりとアウトプットしていきたい。

講演される竹下教授

専門医ケースプレゼンテーションを行う筆者

鈴木 雷太

日本補綴歯科学会 東海支部総会・学術大会 臨床・研究に向け 実り多き大会に

MTBペダリング 随想記 元JFD一五輪日本代表 鈴木 雷太

病院だより vol.16

シリーズ 診療部門紹介⑦

保存科

保存科では、歯科の2大疾患である齲蝕と歯周病、そしてそれに伴う歯髄疾患および根尖歯周組織疾患の治療を専門的に...

①修復治療では、齲蝕や歯の硬組織疾患に対して、審美性と歯質接着性を有した最新のコンポジットレジンを用いての修復...

②歯内治療では、歯科用マイクロクロスコープを使用した根管治療を行い、難治症例に対しては歯科用CTにて精査し、術式の安全性とより効果的な根管治療を施しております。

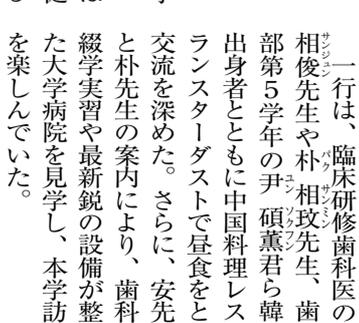
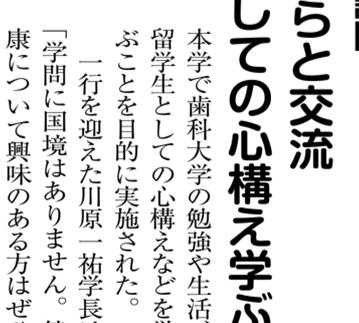
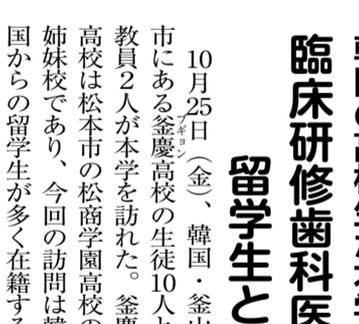
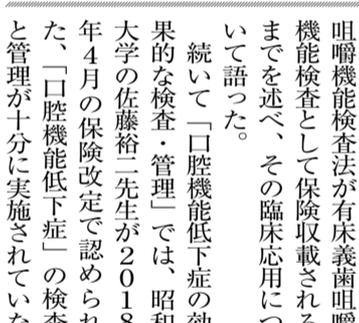
③歯周病治療では、スクレーピング、ルートプレーニング、各種歯周外科治療、歯周組織再生治療、そしてメインテナンスまでを、全身との関連性を考慮し...

今日の超高齢社会において、健康寿命を延長させ快適な食生活を送るようになるため、齲蝕治療、歯内治療、歯周病治療はもろろんのこと、一口腔単位としての治療とケアをしつかり...

また、開業歯科医からの紹介状持参の患者さんへの対応も行っています。

また、開業歯科医からの紹介状持参の患者さんへの対応も行っています。

また、開業歯科医からの紹介状持参の患者さんへの対応も行っています。



歯周組織再生療法(術中)

歯科用マイクロクロスコープを使用した根管治療

歯科用マイクロクロスコープを使用した根管治療

歯科用マイクロクロスコープを使用した根管治療

歯科用マイクロクロスコープを使用した根管治療

歯科用マイクロクロスコープを使用した根管治療

歯科用マイクロクロスコープを使用した根管治療

カムカムメニュー料理教室を初開催 金澤光久総料理長がプロの技伝授



金澤総料理長から料理のテクニックを学ぶ参加者たち

本学が主催する「カムカム(噛む噛む)」メニュー、普及推進活動の一環として10月11日(金)、塩尻市市民交流センターにおいてカムカムメニュー料理教室が初めて開催された。

料理教室は、プロのシェフから料理法を学べるという、長野県内はもとより東京都や静岡県からも参加があった。当日は、フランス料理の真髄であるソース作りから始まり、金澤さんが大型スーパで揃えた魚や野菜などの食材を使って参加者と共に調理した。

この日に作ったソースは、フユメ・ド・ポワソン(魚のだし汁)と白ワインを使った「ヴァンブランソース」、バルサミコ酢とフォン・ド・ヴォーを使った「ジュ・トランシュ」の2種。金澤さんはソースを煮詰める加減や味を引き立てる香りなどのポイントを挙げながら、「どんな料理にも合わせてアレンジできる美味しい万能ソースです。」

作るのに手間はかかりますが、煮詰めるほど美味しい」と解説し、参加者は熱心にメモを取っていた。

メインディッシュは「牛肉のステーキ 森のキノコ添え ソース・ジュ・トランシュ」と「白身魚と海老のソテー 森のキノコ添え ヴァンブランソース」。

想を述べていた。金澤さんは「今回はソースを作る過程を余すところなく見てほしい。時間がたつて売っているが、スーパーで売っている普通の食材を最大限に美味しくする方法をお伝えしましたので、ご家庭でもぜひお試しください。」

最後に、白ワインソースの仕込みに使った野菜を再利用して作った「カムカムリゾット」が参加者に振る舞われ、アルデンテに仕上げた米の硬い食感や濃厚なソースの味わいを楽しんでいた。

「医療の立場から子どもを守る」 第38回日本小児歯科学会中部地方大会

第38回日本小児歯科学会中部地方大会および総会が10月20日(日)、三重県総合文化センターにて開催された。

学講座の大須賀直人教授が会長を務めている。今大会テーマは「医療の立場から子どもを守る」で、特別講演に広島大学大学院医学系研究科歯科矯正学・谷本幸太郎教授、教育講演に三重大学医学部附属病院周産母子センター・三谷義英病院教授と大垣女子短期大学歯科衛生士学科・海原康孝教授、歯科衛生士セミナーには神戸常盤大学短期大学部口腔保健学科・井上治子先生をお迎えし、それぞれ貴重な講演をいただいた。

会員発表では、本学小児歯科学講座の中村浩志准教授が「小児用マウスガードの研究開発」コストで行う臨床上の示唆を与えた。

シンポジウムⅡ「高齢者歯科治療のこれから」では明海大学の岡貴史先生が「在宅歯科医療における口腔機能回復の在り方」をテーマに、高齢者において全身の健康と食事の楽しさに関連性があることを述べ、歯科医療従事者が口腔機能低下症の診断を下すだけではなく、他職種との連携をどのようにすべきかを語った。

その他、若手会員による演題発表がなされ、各会員が取り組んでいる研究内容や臨床を通じての知見が披露された。

臨床直結のシンポジウムや演題発表

第5回補綴歯科臨床研鑽会プロソ2019

第5回補綴歯科臨床研鑽会プロソ2019が9月8日(日)、日本大学歯学部創設百周年記念講堂(東京都千代田区)において開催され、筆者(歯科補綴学講座・黒岩昭弘)が大会長を務めさせていただいた。

シンポジウムⅠ「高齢者歯科治療の現状」その使命と可能性とは」では、日本歯科大学の荒井一郎先生が「咀嚼機能の検査、診断」と題し、開発した咀嚼機能検査法が有床義歯咀嚼機能検査として保険収載されるまでを述べ、その臨床応用について語った。

続いて「口腔機能低下症の効果的な検査・管理」では、昭和大学の佐藤裕二先生が2018年4月の保険改定で認められた、「口腔機能低下症」の検査と管理が十分に実施されていると総評した。

最後に、白ワインソースの仕込みに使った野菜を再利用して作った「カムカムリゾット」が参加者に振る舞われ、アルデンテに仕上げた米の硬い食感や濃厚なソースの味わいを楽しんでいた。



左から筆者、日本補綴歯科学会の大川周治理事長、飯沼利光実行委員長

その学びを伸ばしていただきたい」と歓迎の挨拶を述べた。歯科矯正学講座の岡藤範正教授は、スライドを使って歯科大学での学びや学生生活の概要、授業の様子や自慢の学生などを紹介して大学をアピールした。

一行は、臨床研修歯科医の安相俊先生や朴相政先生、歯学部第5学年の尹碩薫君が韓国出身者とともに中国料理レストランスターストで昼食をとり交流を深めた。さらに、安先生と朴先生の案内により、歯科補綴学実習や最新鋭の設備が整った大病院を見学し、本学訪問を楽しんでいた。

韓国の高校生が本学訪問

臨床研修歯科医らと交流

留学生と心構え学ぶ

10月25日(金)、韓国・釜山市にある釜慶高校の生徒10人と教員2人が本学を訪れた。釜慶高校は松本市の松商学園高校の姉妹校であり、今回の訪問は韓国からの留学生が多く在籍する

本学で歯科大学の勉強や生活、留学生としての心構えなどを学ぶことを目的に実施された。一行を迎えた川原一祐学長は「学問に国境はありません。健康について興味のある方はぜひ



韓国の高校生と交流した安先生(右端)と朴先生(左端)



研究成果を発表した筆者

# Alumni News

松本歯科大学校友会

## 神奈川支部 病院保存科・安西正明教授就任記念講演会 「失敗しない歯内治療」



安西教授（前列右から3人目）と会員

神奈川支部学術講演会が9月7日（土）、神奈川県歯科医会館5階、中会議室において、安西正明先生（本学・病院保存科・4期生）の教授就任記念講演会として「失敗しない歯内治療」の講演が行われた。また土曜日の忙しいなかにもかかわらず東京都、千葉県、神奈川県から28人が参加された。

安西教授は横濱中華街の「菜香新館」にて行われた。懇親会は横濱中華街の「菜香新館」にて行われた。講演会、懇親会共に30人近い会員が参加し、数十年ぶりに顔を合わせた会員もおり、安西教授を囲みながら、学生時代に戻ったように、美味しい食事とお酒を酌み交わし楽しい宴はお開きとなりました。

久しぶりの安西教授の講演を聞き学生時代にお世話になった会員たちは、初心に戻った気持ちになり、基本的な内容から、最新の歯内療法について幅広く、活用できる講演を時間ギリギリまで熱心に聴いていた。質疑応答は時間が足りず、懇親会へ持ち込まれた。

11月8日（金）、第40回日本医学図書館協会北信越地区会例会が今年度担当館を務める本学において開催された。台風19号の影響で交通機関が大きな被害を受けるなかでの開催となり、北陸地方の会員らの参加が心配されたが、当日は北信越地区加盟館8校と日本医学図書館協会（JMLA）より理事2人が参加し、当初の予定どおり執り行われた。

衛生学院歯科衛生士学科第43期生の戴帽式が10月9日（水）、本館7階講堂において挙行され、第2学年生の35人が歯科衛生士をめざす決意を新たにしました。

第2学年を代表して大柳飛佳さんは、「周囲の方々に支えられていることを忘れず感謝の気持ちを持って臨床実習に臨みます。患者さんに対する思いやりを激励の言葉として贈った。

理想の歯科衛生士めざし決意新たに 歯科衛生士学科第43期生戴帽式

理想的な歯科衛生士をめざし決意新たに 歯科衛生士学科第43期生戴帽式

他館の取り組みを知る有意義な機会 第40回日本医学図書館協会北信越地区会例会

理想の歯科衛生士めざし決意新たに 歯科衛生士学科第43期生戴帽式

理想の歯科衛生士めざし決意新たに 歯科衛生士学科第43期生戴帽式

理想の歯科衛生士めざし決意新たに 歯科衛生士学科第43期生戴帽式

理想の歯科衛生士めざし決意新たに 歯科衛生士学科第43期生戴帽式

理想の歯科衛生士めざし決意新たに 歯科衛生士学科第43期生戴帽式

理想の歯科衛生士めざし決意新たに 歯科衛生士学科第43期生戴帽式

## 岡山県支部 恒例の在学生激励会を開催 今後の抱負と目標に先輩からアドバイス

8月10日（土）、岡山市北区のメルパルク岡山にて毎年恒例の在学生激励会を行いました。

今年も本学歯科薬理学・教授で顧問の十川紀夫先生（岡山県）ご出身をはじめ、会員22人、学生2人、協賛業者2人に加え、岡山大学大学院生で千葉県出身の黄野頂策先生（41期生）にもご出席いただき、計27人で開催しました。

冒頭、水川正弘支部長（9期生）より開催のご挨拶と西日本豪雨に被災して皆様からいただいたお見舞いのお礼がありました。

と奥様からも被災後のお見舞いに対するお礼のお言葉をいただきました。県内外を問わず多大なご支援をいただき、本当にありがとうございますとご挨拶いただきました。

さらに水川支部長には西日本豪雨被災後から現在までの経過など、スライドを使ってくわしくお話ししていただきました。

教訓としては避難警報が発令されたらその時は大丈夫と思っても「患者さんやスタッフの安全を第一に考えて即座に診療を中止し、以後の予約もキャンセルして医院を閉め、早々に避難すべき」ということでした。

また、参加してくれた在学生

小山 惇君（第5学年）に今後

### 松本歯科大学 市民公開講座のお知らせ

テーマ「**歯科医療の最前線**」 <全4回>

11月11日 「**審美歯科治療の最前線**」  
歯科保存学講座 教授 亀山 敦史

18日 「**口臭の原因とその対策**」  
公衆衛生学講座 教授 山賀 孝之

25日 「**お口の渇きが気になる方へ**  
— 口腔乾燥症のなるほど学 —」  
口腔病理学講座 准教授 村上 聡

2月18日 「**美味しく食べるための歯の根の治療**」  
歯科保存学講座 教授 増田 宜子

会場：塩尻市市民交流センター（えんぱーく）4F 401会議室  
時間：午前10時～11時30分  
お問い合わせ先：松本歯科大学 社会貢献・地域連携推進センター  
TEL 0263-51-2090

### Economic News

内外の経済 11月28日付

米ドル	110.43円	0.20%
英ポンド	142.52円	0.10%
ユーロ	121.42円	0.01%
スイスフラン	110.51円	0.01%
タイバーツ	3.70円	0.10%
日本円	—	0.01%

（SMBC 信託銀行HP等より）

### 人事異動

採用 10月16日付  
中村 功男 重慶大学歯学部 准教授

10月23日付  
中野 裕子 重慶大学歯学部 准教授

11月1日付  
石崎 玲菜 臨床検査技師 契約職員

10月19日付  
三石紫緒里 重慶大学歯学部 准教授

10月25日付  
清水 善久 事務局長 兼 歯学部 准教授

10月31日付  
小日向清美 助教 歯学部 准教授

10月31日付  
上原 拓斗 事務局長 兼 歯学部 准教授

10月31日付  
片桐 真紀 事務局長 兼 歯学部 准教授

11月1日付  
山賀 孝之 天龍院 准教授

11月1日付  
山賀 孝之 天龍院 准教授

### 12月行事予定

2日付  
II期試験（第5学年）

7日付  
留学生入試(B)・編入学試験(B)

9日付  
定期試験（第4学年）

10日付  
留学生入試(B)・編入学試験(B)

11日付  
衛生学院一般入試(調)

16日付  
合格発表

18日付  
後期試験I（衛生学院第3学年）

22日付  
大学院発表会

22日付  
冬季休業（第1～5学年 大学院）

22日付  
冬季休業（衛生学院第2、3学年）

29日付  
冬季休業（第6学年）

### 理想の歯科衛生士めざし決意新たに

歯科衛生士学科第43期生戴帽式

10月9日（水）、本館7階講堂において挙行され、第2学年生の35人が歯科衛生士をめざす決意を新たにしました。

戴帽式は学生が病院での臨床実習に臨む前に、歯科衛生士の仕事に対する意識を高め、その責任の重さを自覚するための門出の式。大学役員、教員、第1・第3学年生らが見守るなか、笠原悦男衛生学院院长より一人ひとりにキャップが授けられ、教員の手でしっかりと留められた。

笠原院長は挨拶で、「病院には実際に病や苦痛を抱える方がいらつしやいます。学生だからといって甘えは許されません。プロフェッショナルをめざす上で避けては通れない修行の場です。自ら一歩でも前に出ているようなものを吸収し、一回りも二回りも成長した姿を見せてください」と力づけた。

また川原一祐学長は「患者さん一人ひとりに個性があることを尊重し、救いを求める眼差しをよく受け止め、そっと手を添える気持ちを持ってください。自身の健康に留意してがんばってください」と祝辞を述べた。

### 他館の取り組みを知る有意義な機会

第40回日本医学図書館協会北信越地区会例会

11月8日（金）、第40回日本医学図書館協会北信越地区会例会が今年度担当館を務める本学において開催された。台風19号の影響で交通機関が大きな被害を受けるなかでの開催となり、北陸地方の会員らの参加が心配されたが、当日は北信越地区加盟館8校と日本医学図書館協会（JMLA）より理事2人が参加し、当初の予定どおり執り行われた。

### 図書館を見学する協会理事ら

11月8日（金）、第40回日本医学図書館協会北信越地区会例会が今年度担当館を務める本学において開催された。台風19号の影響で交通機関が大きな被害を受けるなかでの開催となり、北陸地方の会員らの参加が心配されたが、当日は北信越地区加盟館8校と日本医学図書館協会（JMLA）より理事2人が参加し、当初の予定どおり執り行われた。

### 理想的な歯科衛生士をめざし決意新たに

歯科衛生士学科第43期生戴帽式

10月9日（水）、本館7階講堂において挙行され、第2学年生の35人が歯科衛生士をめざす決意を新たにしました。

戴帽式は学生が病院での臨床実習に臨む前に、歯科衛生士の仕事に対する意識を高め、その責任の重さを自覚するための門出の式。大学役員、教員、第1・第3学年生らが見守るなか、笠原悦男衛生学院院长より一人ひとりにキャップが授けられ、教員の手でしっかりと留められた。

笠原院長は挨拶で、「病院には実際に病や苦痛を抱える方がいらつしやいます。学生だからといって甘えは許されません。プロフェッショナルをめざす上で避けては通れない修行の場です。自ら一歩でも前に出ているようなものを吸収し、一回りも二回りも成長した姿を見せてください」と力づけた。

また川原一祐学長は「患者さん一人ひとりに個性があることを尊重し、救いを求める眼差しをよく受け止め、そっと手を添える気持ちを持ってください。自身の健康に留意してがんばってください」と祝辞を述べた。

### 理想の歯科衛生士めざし決意新たに

歯科衛生士学科第43期生戴帽式

10月9日（水）、本館7階講堂において挙行され、第2学年生の35人が歯科衛生士をめざす決意を新たにしました。

戴帽式は学生が病院での臨床実習に臨む前に、歯科衛生士の仕事に対する意識を高め、その責任の重さを自覚するための門出の式。大学役員、教員、第1・第3学年生らが見守るなか、笠原悦男衛生学院院长より一人ひとりにキャップが授けられ、教員の手でしっかりと留められた。

笠原院長は挨拶で、「病院には実際に病や苦痛を抱える方がいらつしやいます。学生だからといって甘えは許されません。プロフェッショナルをめざす上で避けては通れない修行の場です。自ら一歩でも前に出ているようなものを吸収し、一回りも二回りも成長した姿を見せてください」と力づけた。

また川原一祐学長は「患者さん一人ひとりに個性があることを尊重し、救いを求める眼差しをよく受け止め、そっと手を添える気持ちを持ってください。自身の健康に留意してがんばってください」と祝辞を述べた。

### 理想の歯科衛生士めざし決意新たに

歯科衛生士学科第43期生戴帽式

10月9日（水）、本館7階講堂において挙行され、第2学年生の35人が歯科衛生士をめざす決意を新たにしました。

戴帽式は学生が病院での臨床実習に臨む前に、歯科衛生士の仕事に対する意識を高め、その責任の重さを自覚するための門出の式。大学役員、教員、第1・第3学年生らが見守るなか、笠原悦男衛生学院院长より一人ひとりにキャップが授けられ、教員の手でしっかりと留められた。

笠原院長は挨拶で、「病院には実際に病や苦痛を抱える方がいらつしやいます。学生だからといって甘えは許されません。プロフェッショナルをめざす上で避けては通れない修行の場です。自ら一歩でも前に出ているようなものを吸収し、一回りも二回りも成長した姿を見せてください」と力づけた。

また川原一祐学長は「患者さん一人ひとりに個性があることを尊重し、救いを求める眼差しをよく受け止め、そっと手を添える気持ちを持ってください。自身の健康に留意してがんばってください」と祝辞を述べた。